

S 総合コース（関東）

概要

このコース群は、各分野の専門家を講師として、知的財産管理、知的財産戦略、ライセンス戦略など、知的財産権をめぐる国内あるいは国際的な環境変化を的確に把握するために必要な重要事項と動向について、最新の情報、豊富な実例により講義します。

S1コースの改編について 2016年度カリキュラムリニューアル

これまで、本コースの受講対象者を主として知的財産部門や研究開発部門の管理職、役員およびそれらに準ずる方々としてきました。

一方、企業にとって知的財産部門の役割が増々重要視される状況となっており、その一翼を担っているのが「知財部門のマネージャ」であることは言うまでもありません。

そこでこの度、本コースをその「知財部門のマネージャ」に特化した内容に改編することに致しました。この改編S1コースでは、「知財部門のマネージャ」にとって必須と考える講義課目も新たに組み込み、知識・意識・スキルを中心とした内容を、4日間という短期間で修得できるようにまとめました。

なお、「研究開発部門のマネージャ」を対象にした研修については、Gコース研修で対応します。

（ご参考：G9M「技術部門マネージャのための知的財産講座」）

S1 コース担当 人材育成委員の声

知財部門のマネージャまたはそれに準ずる方にフォーカスしたマネジメント講座に改編致しました。従前の講義内容を刷新していますので、過去にS1コースを受講された方も是非受講をご検討下さい。

S01

知財活動における
マネジメント講座初回開催日の
2週間前まで申込可能です。
お申込みはこちらから。

概要

このコースは、知財部門のマネージャまたはそれに準ずる方に求められる戦略思考、リスクマネジメント能力、グローバル対応力などを、各界で活躍されている講師が、経験談や豊富な実例を交えて講義します。

●対象者

知財部門のマネージャまたはそれに準ずる方で、具体的には以下に挙げる方

- マネージャ候補者
- マネージャになってまだ経験の浅い人。
- マネージャになって数年経過しているが、知識を補充したい人、意識改革をしたい人、視野を広げたい人。

●学びのポイント

経済のグローバル化が進む今日において、激化する競合他社との競争に勝つためには、強い知財の創造とその活用が不可欠となるなど、知財部門の果たすべき役割は一層大きくなっています。経営に資する知財部門として機能するかどうかはマネージャの意識に因るところが大きく、それにより組織の存在意義が大きく変わってきます。

知財部門に対する社内外からの期待に的確に応えるには、知財マネージャが高い意識と行動力を備え、チームメンバーをリードし、開発部門や事業部門、また経営層に対して積極的に働きかけることが重要となります。

こうした知財マネージャに求められる、戦略思考、権利活用力、リスクマネジメント能力、税務知識、グローバル対応力などを、講師の実体験や実例を交えた講義を通じて学んで頂きます。

開催日		講義科目	講師
10/7(木)	午前	1.知財戦略概論	(株)日立製作所 弁理士 水本 大介 氏
	午後	2.知財戦略の実践	(株)リコー 石島 尚 氏
11/17(水)	午前	3.グローバル知財活動における留意点	i.PARTNERS特許事務所 弁理士 井上 正則 氏
	午後	4.攻めと守りの知財活動	福田・近藤法律事務所 弁護士 近藤 恵嗣 氏
12/8(水)	午前	5.知財活動におけるリスクマネジメント	弁護士法人中央総合法律事務所 弁護士 中務 尚子氏
	午後	6.知財活動における税務	DT弁護士法人 弁護士 手塚 崇史 氏
1/26(水)	午前	7.ブランド戦略における知財の関わり	青和特許法律事務所 弁理士 外川 奈美 氏
	午後	8.知財マネージャに期待すること	パナソニック(株) 足立 和泰 氏

申込みコード：S01-P1

1. 知財戦略概論

IoT、AI時代を迎え、企業の知財を取り巻く環境は激変してきています。競争戦略、イノベーションと知財との関係など、基本的な企業戦略のフレームワークを解説しつつ、グローバル企業の知財戦略を紹介し、特許にとどまらない、広義の知財の戦略について概説します。

2. 知財戦略の実践

本講座では、事例を参考にしながら、実際に知財戦略を遂行していく上での課題を知り、これら課題についてどのように取り組むべきかを理解することにより、自社における知財戦略の遂行イメージを持って頂きます。

3. グローバル知財活動における留意点

この講義では、日、米、欧、中、韓、インドの知財動向やTPP等国際協定/条約を紹介すると共に、これらの動きに対して日本企業はどのような準備、対応をすべきかを解説します。そして、日本企業がグローバルに事業活動を展開するに際しての、知財戦略上の留意点を説明します。

4. 攻めと守りの知財活動

知財マネージャとしての仕事において、自社の知財の活用と他社からの権利行使に対する防御は車の両輪と言えます。この講義では、特許紛争を前提として、攻防における主な争点の考え方を習得していただき、他社に警告する前にすべきこと、警告を受けた場合のリスクマネジメントの重要性を理解して頂きます。

5. 知財活動におけるリスクマネジメント

企業活動において他社との連携が定期的に行われるようになり、情報管理が重要となっています。そして情報を含む知財リスクマネジメントは無体であるがゆえの困難を伴います。この講義は、営業秘密を中心に著作権法、独占禁止法の視点も加え、最新状況を理解し事例に基づいた対応を考えます。

6. 知財活動における税務

税務というと経理部門の話と思われるかもしれませんが、知財部門で働く方にとって一定の税務の知識があった方が日々の業務において、様々な判断をする際に有効であることは疑いようがありません。そこで、知的財産権に関する税務について最近のトピックも交えながら説明します。

7. ブランド戦略における知財の関わり

本講義では、ブランド戦略に関する基礎知識から、コーポレートブランドやプロダクトブランドなどの種類、さらには商標法、不競法との関係、そしてブランド戦略立案と実践に至るまでを講義することにより、知財マネージャとしてブランド戦略に対して如何に関わるかを学んで頂きます。

8. 知財マネージャに期待すること

産業競争の現場で知財が最大の効果を発揮できるかどうかは、知財マネージャの力量にかかっています。経営者への知財戦略提案と知財部門で実行するための組織構成と運用について理解して頂きます。